

第27回

新型コロナウイルス禍、

シーセッション（女性の不況）とSDGs

行方市SDGs推進アドバイザー・茨城大学教授 野田 真里

1. シーセッション（女性の不況）とは

市民の皆さまは、シーセッション（shecession）という言葉をご耳にされたことはあるでしょうか。これは、女性を意味する she と不況 recession の造語です。新型コロナウイルス禍の経済において、女性が最も影響を受けており、経済の落ち込みは女性の不況であるという意味です。新型コロナウイルスにおけるSDGsの重要なキーワードですね。前回（第26回）ご説明した通り、新型コロナウイルスは私たちの社会の課題を浮き彫りにしています。今回は、ジェンダー（SDGs目標5）と経済・雇用（目標8）への影響について検討していきます。

2. グローバル問題としてのシーセッションの特徴

シーセッションは日本に限らず、グローバルな問題です。世

界経済フォーラム（2021）によれば、女性の就業が多い産業においては、男性のそれと比べて落ち込みが大きくなっています。2020年に失業が増加した高所得24カ国のうち日本を含む17カ国において、女性の方が男性よりも職を失いました。さらに、女性は平均して男性よりも週当たり7.7時間長く、無報酬の家事労働（子どもの世話等）に従事しており、これによって仕事を辞めざるを得ないケースもあります。

シーセッションの特徴は、周（2020）によれば次の通りです。新型コロナウイルス禍のダメージが女性雇用者の多い産業（主に宿泊・飲食、生活・娯楽等のサービス業）で生じており、女性の雇用減少が目立ちます。これは、2008-09年のリーマンショックによる世界同時不況の際、男性の雇用者が多い製造業で雇用調整が起きたことと対称的といえます。

3. 新型コロナウイルス禍の仕事への影響とシーセッション

次に、新型コロナウイルス禍の仕事への影響が男女でどのような差があるのか、シーセッションを仕事の特徴との関係に注目して見てみましょう（表）。菊地・北尾・御子柴（2020）は、仕事の特徴を対人性と柔軟性の観点から4つに分類したうえで、男女で比較検討しています。なお、ここでいう「一般的」とは必ずしも仕事が対面（対人）でなくてもよいことを示し、その逆が「対人的」となります。また、「フレキシブル」とは、仕事の時間や形態が柔軟であること指します。

4つの分類のうち、新型コロナウイルス禍の影響を最も受けにくいのは「一般的・フレキシブル」な仕事です（例 金融業でフレックスタイムやリモートワークが可等）。この場合、男性の就業が約23.5%（年収614万円）であるのに対し、女性は19.7%（年収292万円）にとどまっており、男女間の格差が見られます。さらに顕著なのは、最も影響を受ける「対人的・非フレキシブル」な雇用です（例 介護職で日時・場所等が決

まっている等）。この場合、男性の就業が19.6%（年収386万円）に対し、女性は33.3%（年収161万円）となっています。つまり、女性の3人に1人（男性の約1.5倍）が、新型コロナウイルス禍で大きな影響を受ける仕事に従事しており、その中でも女性の年収は男性の半分にも満たないという、深刻な状況であるといえます。

表 雇用の対人性と柔軟性における男女別のシェア（上段）と平均年収（下段）

	男性			女性	
	一般的	対人的		一般的	対人的
フレキシブル	23.5%	15.5%	フレキシブル	19.7%	33.3%
	614万円	588万円		292万円	305万円
非フレキシブル	41.4%	19.6%	非フレキシブル	13.8%	33.3%
	442万円	386万円		192万円	161万円

出典：菊地・北尾・御子柴（2020）